

教育レポート 全国学力・学習状況調査

好成績をキープ 高い学力が示される

学力調査 高水準の学力が定着

小学校 国・算で全国以上

理科は全国平均を下回る一方、国語、算数は全国平均以上の結果となりました（右図）。それぞれの教科で出題された問題の一例とその評価は次のとおりです。

<問題の一例と評価>

国語

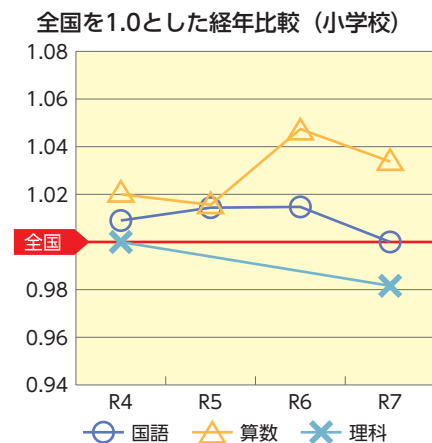
伝統工芸品のちらしを作成する際の工夫について答える問題で、模様を具体的に伝える工夫として言葉と図を用いることを理解することができています。

算数

ハンドソープを何回プッシュすると空になるかを調べる問題で、回数と数量に着目し、変化する二つの数量の関係を理解することができています。

理科

金属の性質を選ぶ問題で、電気を通すもの、磁石に引き付けられるものがあることなど、基本的な知識の定着に課題が見られます。



教科別正答率 カッコ内は全国平均

国語	算数	理科
67 (67)	60 (58)	56 (57)

中学校 全科目で全国超え

国語、数学、理科の全ての教科で全国平均を上回る結果となりました（右図）。それぞれの教科で出題された問題の一例とその評価は次のとおりです。

<問題の一例と評価>

国語

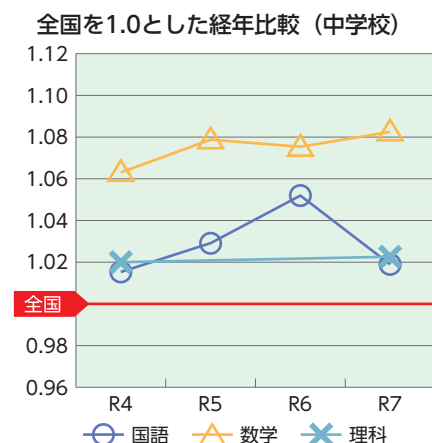
2人の登場人物の性格を答える問題で、文章の関係に注意しながら登場人物の設定を捉えることができています。

数学

カードを使ったじゃんけんゲームにおいて確率を答える問題で、ゲームに勝つ確率を正確に求めることができています。

理科

水に関する発表を見て、分かったことなどについて記述する問題で、理解したことを整理して振り返ることができています。



教科別正答率 カッコ内は全国平均 (IRT*スコア)

国語	数学	理科
55 (54)	52 (48)	514 (503)

令和7年度全国学力・学習状況調査（※）の結果がまとまりました。学力調査では小学校の国語・算数、中学校の国語・数学・理科で全国平均以上の高い正答率を得ました。

問 教育センター／Tel675-0398 005061

学習状況調査 考える力がさらに伸びる

聞き手のことを考え、発表に工夫も

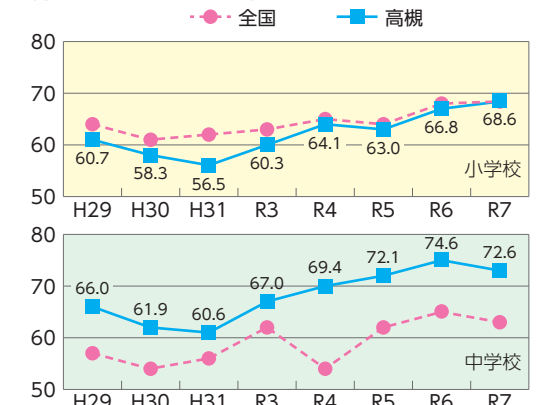
自分の考えを発表するとき、自分の考えが聞き手にうまく伝わるように、資料や話の組み立てなどを工夫して発表できていたと思う児童生徒の割合が小学校で上昇し、中学校でも引き続き全国平均を大きく上回りました。

ポイント

GIGAスクール構想で整備した1人1台端末を使って友だちと資料や考えたことを共有したり、発表内容を図や表などで分かりやすく表現したりするなど、思考を深めながら授業に取り組んだ成果が表れています。



「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」という質問に肯定的な回答をした割合



課題解決に向け、自ら取り組む

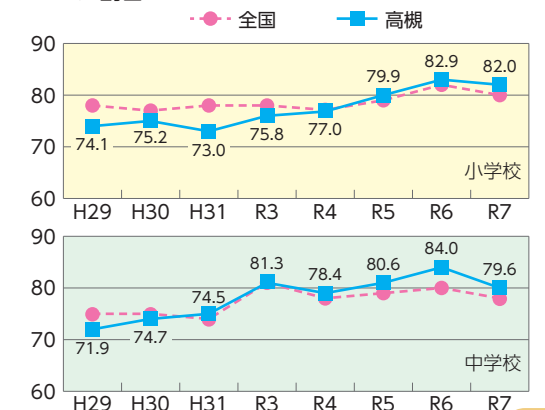
課題の解決に向けて、自分で考え、自ら取り組めていたと思う児童生徒の割合が小中学校とも3年連続で全国平均を上回りました。

ポイント

先生が答えを教えるのではなく、まずは自分自身で考えられるような問いかけをする、グループ活動や子ども同士の対話の中で解決の糸口に気付かせるなど、授業方法を工夫し取り組んだ成果が表れています。



「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問に肯定的な回答をした割合



※全国学力・学習状況調査

全国の小学6年生と中学3年生を対象に行う調査です。今年度は、国語、算数・数学、理科の学力調査と学習や生活に関わる状況について質問紙調査を実施しました。中学校理科には、1人1台端末を使ったIRT方式が導入されました。※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止

<IRT方式>

生徒の正答・誤答が問題の特性によるものか、生徒の学力によるものかを区別して分析し、学力スコアを推定する方式。全国平均のIRTスコアはおよそ500。



▶次ページでは、好成績につながった授業改善の取り組みを紹介します

分かった！できた！もっとやりたい！

子どもが主役の授業を目指して



子どもたちが「分かった」「できた」「もっとやりたい」と実感できる授業を目指し、先生たちも日々学び続けています。教員同士で切磋琢磨（せっさたくま）し、より良い授業を創造する第一中学校区の取り組みを紹介します。

第一中学校教諭・宮崎望さんに聞きました



第一中学校区（第一中、高槻小、桃園小）は学習指導拠点校区で、日常的に教員同士の授業参観や事後協議などを行い、授業の改善に取り組んでいます。

教員が授業を参観する



他の教員の授業を参観し、子どもたちがどのように学んでいるのかを丁寧に観察します。教員の問いかけで子どもがどう変わったのかに着目し、自分の授業づくりの参考にします。

振り返って高め合う



授業参観の後、授業の工夫や改善点を振り返ります。「導入部分の工夫で子どもたちの集中力が高まったね」など具体的なやり取りから次の授業に生かせるヒントが生まれます。

教員によって得意分野はさまざま。問いかけの方法やICTの効果的な使い方など、他の教員の良いところを自分の授業に取り入れています。



授業が変わると子どもたちの学ぶ姿勢も変わります。「もっと学びたい」と言ってくれるとうれしいですね。



学校外から助言をもらう



教育センターや他校の教員など、学校外の人にも授業を見てもらい、助言をもらいます。他校での授業の工夫や実践例の紹介、授業場面の詳しい解説も加わることで、さらに授業が充実します。

さらに充実した授業へ



（第一中学校）



（桃園小学校）



（高槻小学校）

どんな授業を目指しているの？

- 教員が一方的に知識を教え込む授業だけではなく、子どもたちが自分で考えて学びに向かう授業を目指しています。
- 子どもたちが授業に熱中し没頭できるように、一人では解決が難しくても、仲間と助け合えば乗り越えられるような課題を設定する。そんな授業を通じて、子どもたちが自分で考え、仲間と協働することで、将来を切り開いていくための力を育んでいます。

Q これまでの授業とどう違う？

A 一方的に知識を教え込む授業だけでは、知識が頭にバラバラに入ってしまう使いづらくなります。しかし、子どもが考える授業では、知識が整理されて頭に残るので、困難に直面したときでも解決の糸口が見つかりやすくなります。

Q 先生の役割は？

A 先生の役割は、正しい答えを教えることではなく、子どもが自分たちで考え、答えを見つけられるよう、一緒に伴走すること。子どもの表情やつぶやきを丁寧に捉えて、他の子どもに問いを広げること、さらに深い学びにつなげます。



拠点校区の取り組み 全ての学校に

教育センターでは、授業づくりの研究や教職員への研修などを通じて、子どもたちがより良い環境で学ぶことができるよう日々取り組んでいます。学習指導拠点校区の取り組みは、教育センターの指導主事が市内の学校を訪問して校内研修を通じて発信するほか、ポータルサイトで全教職員と共有するなど、市内全ての学校に広めています。



教育センター
北畑謙一さん